

Y10b モバイル・プラネタリウムの現状と運用実験

渡部 義弥 (大阪市立科学館)

モバイル・プラネタリウムは、風船式あるいは組み立て式のドームスクリーンに、可搬型の星空投影機を組み合わせたものである。ワゴン車などで運搬ができ、平らな床と必要な天井高があり、100 V電源がとれる体育館の様な屋内なら数十分という短時間で設置、撤収ができるのが特長である。

欧米では、このモバイル・プラネタリウムが盛んに運用されている。地区の学校群が共同で設備をもって各校をまわったり、科学イベントなどの機会に出張したり、科学館が学校の教員などに研修をして貸し出したりといった事業が盛んに行われている。

一方、日本では、おそらく数千のモバイル・プラネタリウムが理科教育振興法の助けもあり導入されてきたが、十分に活用されてきたとはいえない。今回、大阪市立科学館ではモバイル・プラネタリウムを導入し運用実験を行ったので、課題もふくめ今後の活用を提案したい。